

AI 教育推進室 2021 年度総括（自己点検・評価）

AI 教育推進室長 木戸 博

1. 2021 年度目標の達成状況・主要計画の実施状況

(1) AI 教育プログラムの実施

事実の説明	<ul style="list-style-type: none"> 人工知能総論（全学科必修、前期）にて全 14 回のオンデマンド授業を行った。 人工知能入門（全学科選択、後期）にて全 7 回のオンデマンド授業及び全 7 回の再履修クラスを行った。
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 人工知能総論においての全学科の教員、学習支援センターの職員及び非常勤講師の計 13 名による全学的な AI 教育推進に対する取組みは評価できる。 全学科の教員がそれぞれの関連分野でのデータ・AI 利活用についての講義は受講生から好評であり、AI に対する関心を大きく高めた。 人工知能入門では、不合格であった受講生に対し、理解度を向上させるために再履修クラスを設け修了者増に繋がった。

(2) AI 教育プログラムの教育内容

事実の説明	<ul style="list-style-type: none"> 人工知能総論において数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度のリテラシーレベルに準拠した教育内容とした。 人工知能入門において G 検定ジェネラリスト試験の出題範囲に沿った教育内容とした。 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度の応用基礎レベルの教育内容の検討を行った。
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 人工知能総論においては、モデルカリキュラムに従い、①社会におけるデータ・AI 利活用、②データリテラシー、③データ・AI 利活用における留意事項、を含めた教育内容とし、令和 4 年度の認定申請可能な教育内容となった。 人工知能入門においては、受講生に G 検定ジェネラリストの資格を認知させ、資格取得の意欲をもたらした。 2 年後の認定取得の目標ではあるが、応用基礎レベルのモデルカリキュラムの内容を踏まえた検討を開始したことは評価できる。

(3) AI 教育プログラムの履修・修得

事実の説明	<ul style="list-style-type: none"> 人工知能総論の履修率（履修者/定員）は、111%（目標 99%）を達成した。 ※人工知能総論の履修者/在籍者は、99.8%であった。 人工知能総論の修得率（修了者/履修者）は、92%（目標 90%）を達成した。 人工知能入門の履修率（履修者/定員）は、87%を達成した。 ※人工知能入門の履修者/在籍者は、79%であった。 人工知能入門の修得率（修了者/履修者）は、92%を達成した。
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 人工知能総論の履修率、修得率において共に目標を達成した。 人工知能総論の受講生アンケートにおいても、受講学生の約 80%が、授業満足度 70%以上であったことが高い修得率につながった。 人工知能入門は選択科目であるにもかかわらず、高い履修率と修得率に至ったことは高く評価できる。

(4) AI 教育プログラムの推進体制

事実の説明	<ul style="list-style-type: none"> AI 教育推進室会議を 4 回開催し、AI 教育の円滑な推進を図った。 AI 教育推進委員会を 2 回開催し、全学的な AI 教育推進を図った。 外部評価委員会にて、本学の AI 教育の状況を説明し意見を伺った。
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> AI 教育推進室会議及び AI 教育推進委員会を計画通り開催し、教育内容の確認と検討を全学的に行った。 当初予定に無かった外部評価委員会での本学の AI 教育の状況を説明は、産業界からの意見を伺う良い機会となった。

(5) その他

事実の説明	<ul style="list-style-type: none"> AI 教育推進室に AI 教育担当教員を、1 名新規採用（令和 4 年 4 月～）した。
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 適切な募集要項及び採用審査により、優秀な人材の採用につながった。

2. 課題および改善・向上の方策

- 令和 5 年度から開講予定の「人工知能基礎」、「人工知能応用」の教育内容については、認定制度の応用基礎レベルの認定要件やモデルカリキュラムの内容を検討し、内容調整すること。

3. 特記事項

無し